

小児神経グループの紹介

1. 小児神経グループの診療

小児神経グループの対象疾患は、急性脳炎・脳症、てんかん、神経筋疾患、筋疾患から重症心身障害児(者)医療、発達障害まで多岐にわたります。以下の医療機関で診療を行っています。

医療機関	メンバー (敬称略)	特徴
国立病院機構 西新潟中央病院	遠山潤、小林悠、三浦雅樹 放上萌美、古寺一樹、藤井仁 美	てんかんセンターとしての専門医療 小児神経疾患全般の専門的診療
はまぐみ小児療育センター	赤坂紀幸、福島愛	脳性麻痺や神経発達症の専門医療 リハビリテーション
長岡療育園	影山隆司、海津勇希	重症心身障害児(者)や神経発達症の専門 医療、リハビリテーション
国立病院機構新潟病院	木下悟、岡崎健一	筋疾患、重症心身障害児(者)の専門医療 小児神経疾患全般の診療
新潟大学医歯学総合病院	大野武	小児神経疾患全般の診療
新潟市民病院	山田慧	小児神経疾患全般の診療
新潟南病院	山崎佐和子	小児神経疾患全般の診療 発達外来、小児言語聴覚療法
鶴岡市立荘内病院	齋藤なか	小児神経疾患全般の診療
長岡赤十字病院	高橋勇弥	小児神経疾患全般の診療
済生会新潟県央基幹病院	中林大器	小児神経疾患全般の診療
発達クリニックばすてる	東條恵、眞柄慎一、奥村理恵	神経発達症を中心に思春期医療も対応
あたごこどもクリニック	吉川秀人	発達障害の診療
にじいろこどもクリニック	大橋伯	一般小児科、発達外来
療育相談(各地)	分担	地域の二次健診

上記以外にも、小児神経疾患の診療や発達支援に力を入れているクリニックもあります。

- ・小児神経疾患はさらに細分化されて、専門性が高まっています。西新潟中央病院では全国各地、日本国外からも患者さんが集まります。
- ・小児の発達に関する困りごと、相談は増加の一途をたどっています。クリニックを開業した後も専門性をいかした診療を継続することもできます。
- ・小児神経診療の特徴として、長期的な視点で患者さんの生活そのものをサポートすることが挙げられます。各自のペースで取り組める業務が多いことから、妊娠・出産・育児に際しての短時間勤務など医師個人の事情により勤務を調整することが可能です。

2. 小児神経診療のトレーニング（キャリアプラン）

- ・認定施設での研修により、以下の専門医を取得することができます。

小児神経専門医：西新潟中央病院、はまぐみ小児療育センター

てんかん学会専門医：西新潟中央病院

臨床遺伝専門医：新潟大学医歯学総合病院

- ・臨床研修として、希望に応じて国内留学を可能としております。

主な研修先：国立精神・神経医療研究センター、鳥取大学医学部脳神経小児科 など

- ・各自の専門領域で得られた新知見を国内外の学会で積極的に発表しています。

主な関連学会：小児神経学会、てんかん学会、臨床神経生理学会、重症心身障害学会 など

- ・小児神経領域では、診断・治療に難渋する場合が珍しくありません。以下のような機会では症例検討や情報交換を行っています。（専門医以外の参加も可能ですので、ご活用ください。）

★Once a month（月1回；西新潟中央病院を中心に Web 開催）

★新潟小児神経学研究会（年2回；新潟市）

★蔵王セミナー（年1回；山形、かみのやま温泉）

★小児神経学会甲信越地方会

（年1回；新潟、長野、山梨の持ち回り **※2025年11月1日（土）新潟市ときめいとで開催**）

Once a month、蔵王セミナーではメーリングリストもあり、症例相談ができます。参加ご希望の先生は下記連絡先までお願いいたします。

3. 研究

下記の施設で各種モダリティを用いた研究ができます。大学院生として学位取得も可能です。また、社会人大学院生として留学先での研究をまとめて、学位を取得することもできます。

施設名	特徴
脳研究所	脳発達評価、機能解析、動物実験など
西新潟中央病院	難治てんかんの新たな治療法の開発など

【2024年の主な論文発表等】

- 1) [Kodera K](#), Hishida R, Sakai A, et al. GPATCH4 contributes to nucleolus morphology and its dysfunction impairs cell viability. *Biochem Biophys Res Commun*. 2024;693:149384. doi:10.1016/j.bbrc.2023.149384
- 2) Nyuzuki H, Ozawa J, Nagasaki K, Nishio Y, Ogi T, [Tohyama J](#), Ikeuchi T. A severe case of cardiospondylocarpofacial syndrome with a novel *MAP3K7* variant. *Hum Genome Var* 2024 Feb 22;11(1):8. doi: 10.1038/s41439-024-00265-0.
- 3) Tamura T, Yamamoto KS, [Tohyama J](#), Morioka I, Kanno H, Yamamoto T. Reciprocal chromosome translocation t(3;4)(q27;q31.2) with deletion of 3q27 and reduced *FBXW7* expression in a patient with developmental delay, hypotonia, and seizures. *J Hum Genet* 2024; 69: 639-644
- 4) [Moemi Hojo](#), Noriko Soma, [Kei Yamada](#), [Yu Kobayashi](#), [Masaki Miura](#), [Hitomi Fujii](#), Hiromi Nyuzuki, Yosuke Nishio, Taichi Oso, Tomoo Ogi, Takeshi Ikeuchi, [Jun Tohyama](#). Neonatal myoclonus in Bryant-Li-Bhoj syndrome associated with a novel *H3F3A* variant. *Hum Genome Var* 2024; Dec 4;11(1):45. doi: 10.1038/s41439-024-00303-x.

5) 山田 謙一, 齊藤 勇紀. 小児科診療所で行う起立不耐症への身体心理的支援：個別化診療にむけて. 新潟青陵学会誌 2024;第 17 巻第 2 号; 48-54

国際学会

1) M Miura, J Tohyama, H Fujii, E Seki, K Yamada, M Hojo, Y Kobayashi. Comparison of seizure induction between COVID-19 vaccination and infection in Dravet syndrome. 15th European Epilepsy Congress. Roma. 2024.9.8-10.

2) Kobayashi Y, Sakuma S, Hattori T, Yamada K, Hojo M, Miura M, Seki E, Tohyama J, Kato M, Hiroto Saito H, Matsumoto N. The clinical characteristics of *DHDDS*-related progressive myoclonus epilepsy. 15th European Epilepsy Congress. Roma. 2024.9.8-10.

4. お問い合わせ先

神経グループに興味を持ってくださる先生、どの専門分野にしようか悩んでいる先生、お気軽に下記まで連絡ください。症例の相談はお近くの神経グループ医師までお願いいたします。

大野武 (おおの たけし) [takeono2299 \[アットマーク\] yahoo.ne.jp](mailto:takeono2299@yahoo.ne.jp)
遠山潤 (とよやま じゅん) [tohyama.jun.um \[アットマーク\] mail.hosp.go.jp](mailto:tohyama.jun.um@mail.hosp.go.jp)